

【六月の言葉（令和元年）】

仏はどこにいるのか、と問うことは
心はどこにあるのか、と問うのと同じ

「仏や浄土などと言うが、一体そんなものどこにあるのですか？・・・とても多い質問です。

しかし「心はどこにあるのですか？胸にあるのですか、頭の中ですか？見せてください」と問う人はいません。

仏や浄土は、心や精神と同じで、実在として存在するものではありません。

「この本は読む価値がある」などと言います。しかし、読む「価値」など目に見えませんが、価値を見出せない人もいます。仏や浄土の存在性とは、「価値がある」といった意味合いに限らず、近く近いものです。

つまり、宗教とは「有るのか」「無いのか」などの実体を問うものではなく、私の人生の価値を見出していく世界なのです。阿弥陀如来の教えとは、私にとって無くってはならない価値のある世界なのです。